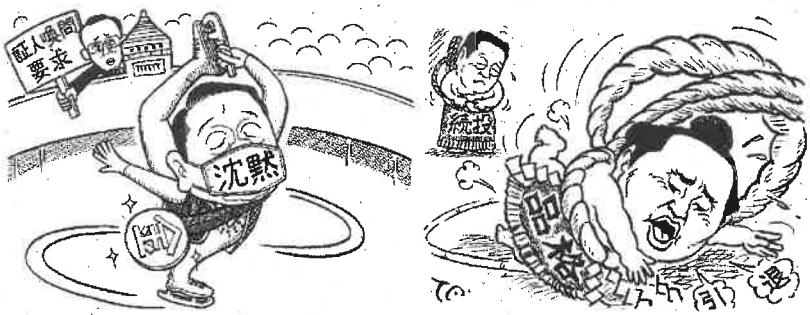
第69号
平成22年3月

フクタニュース

発　行
(株)フクタ
砕石部

品　格

帰宅後、晩酌をしながらＢＳフジのプライムニュースを見るのが日課になっている。
反町某というキャスターが、古い友人に似ているので親近感もある。
バルセロナオリンピックたけなわということで、先日はスポーツをテーマにしてやっていた。朝青龍の話題になり国技大相撲は『文化』なのか『神事』なのか『興業』『スポーツ』なのかと議論していた。
日本人はスポーツ選手に真央ちゃんや雄星君のような混じりっ気のないものを求めているようだ。どんなに強くてもダーティーであってはならず、日本人古来の美意識に叶うものでなければならない。何にせよ日本人はトップに立つ人に『品格』を求めている。逆に言うと品がない人はトップに立てないのかも・・・。国会法の中に『議員は、議員としての品位を維持しなければならない』とわざわざ書いてある。スポーツ選手にはそういう法律はない。なるほど議員先生方にはそういう文章が必要なのかとちょっと納得した。



「金はおれだな」　はざま隆治　　身の丈に合わず…　あらい太朗

岩手日報　夕刊　世相パックより

地産地生

建設関連業界から聞こえてくるのは、景気の悪い話ばかりである。昨年岩手県内でも三社の砕石業者が閉山しています。採石業は資源産業であり、資源を抱えて他地へ引越すことが出来ない。そういう特質を素直に受け止め『この地に産まれて、この地で生きる』ことをテーマとして、決意新たに新年度を迎えたいと思います。
変わらぬご愛顧をよろしくお願いします。

安 e-site

年明けから全材種の定期試験を実施している。骨材、路盤材、盛土材について約２ヶ月がかりで全項目について試験調査をする。自社で出来ない試験については外注し、結果を整理して材料承認のデーターとし報告書を作成する。この一連の作業を３月中に完了し、４月から２２年度版の報告書を発行するという手はずである。
また結果は年間の品質標準として、原石や工程能力の管理に利用する。いいものをを安く安定的に供給するための私達の隠れた仕事である。

すりへり試験機

安定性試験状況

ふるい各種

大局観

ご趣味は？と聞かれて『将棋』と答えるには実際に将棋を指さないのでおこがましいが、『将棋鑑賞』は時々する。
３月はプロ将棋界も総決算で、いろいろなタイトル戦が花盛りである。その世界に君臨するのが羽生善治である。
その羽生善治名人が加藤九段と戦った歴史に残った名局がある。途中図がそれでこの局面で羽生は５二に銀を打つのである。駒の動かし方がわかる方なら『なぜ？』と思うであろう。王手でもないし、飛車でも金でもただで取られてしまうのである。実践ではただでは取られない周到な戦略があり、結局この後数手指して羽生の勝ちとなる。
この局面、素人(私)には到底５二銀は思い浮かばない。戦場で自軍の将校クラスの銀を犬死とも思える戦地へみすみす送り出すにはしのびないと考えてしまう。また自陣をみると敵が迫ってきていて守りも固めたい。しかし、当然ながら一度に一手しか指せない。こんな瀬戸際で意思決定しなければならない状況は大なり小なり日常ありえることであろうたかが将棋である。しかしそこに明るい人生ヒントが隠されていると思えるのだ。

(この次の一手が▲5二銀)
△加藤一二三　持駒:桂歩

▲羽生善治　持駒:角金銀二香歩

編集後記

今年は、雪が少ない冬だったように思います。家の周りの除雪を何回もしなくてすみました（ラッキー）
雪が終わるといよいよ桜！花見！が、待っています。気象庁によると、今年の岩手県の開花予想は平年並みの４月２０日あたりのようです。楽しみ！
三春町の滝桜は、毎年４月中・下旬に四方に広げた枝から薄紅の花が流れ落ちる滝のように咲き匂うことから、この名があるそうです。いつか見に行きたいな・

三春町　滝桜

実りの冬　上には上が

２月はワカサギ釣りのシーズンである。週末になるとつりキチ社員は連れ立って出陣し、月曜日は釣果に花を咲かせている。
ある日、重機のサービスマンが来て釣りの話になった。我社のＯ君は今シーズン『魚体は小さいが３００は釣った』と好調ぶりをアピールしていたのだが、サービスマン曰く『一日で１５００匹釣った』とのこと。この言葉を耳に焼き付けて来シーズン雪辱を期すことをＯ君は誓ったであろう。ちなみに筆者は２回目の戦いに臨み昨年の１０倍の釣果を得て自己満足している。